

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
電気理論Ⅱ	講義		1		学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	糸数 亮太
			19		実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	電験三種理論から基本的な電気を学ぶ上で必要な「直流回路」、「交流回路」の考え方や計算方法の習得を目指す。 第一種・第二種電気工事士・消防設備士(計算問題)の試験合格を目標とする。
使用教科書・副教材等	第一種電気工事士 筆記試験模範解答集 2026年版 第一種電気工事士「筆記試験完全マスター」改訂4版
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	25 %			%
	小テスト	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①第一種電気工事士計算問題 ②2級電気工事施工管理計算問題 ③第二種電気工事士計算問題 ④1級電気工事施工管理計算問題	4	①第一種電気工事士筆記試験(上期)対策	① 試験
			5		
			6	①第一種電気工事士筆記試験(下期)対策 ②2級電気工事施工管理(一次)対策	①・② 試験
			7		
			8		
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

【関連教科】 ①電気工事士対策Ⅱ ②電気理論Ⅱ ③電気工事施工管理Ⅱ ④原動機⑤危険物取扱者対策⑥消防設備士対策 ※③、④に関して受験者の有無をもって一部授業内容を変更する
--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
管工事施工管理Ⅱ	講義		4	4	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	大城 勝
			76	80	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	一学年次の基礎内容から2級管工事施工管理技術検定試験(学科)合格を目標とする
使用教科書・副教材等	2級管工事施工管理技術検定試験問題解説収録版 2026年版 2級管工事施工管理技術検定受検テキスト(学校作成本)
教員実務経験	ビル管理会社にてホテルのボイラ運転業務に従事した。

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	40 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① 試験概要説明 試験各分野解説	4 試験概要説明及び受験手続の説明を通し、学生の気運を高め授業へ導入する	①～③
		② 一般基礎		
		③ 電気・建築 空気調和設備	5 (1)室内外環境及び水質、汚濁について学習し理解させる。	①～⑤ 試験
		④ 給排水衛生設備 設備に関する知識	6 (2)屋内配線施工及び建物構造について学習し理解させる。 (3)空調、換気及び排気設備について学習し理解せる。	
		⑤ 設計図書に関する知識 施工管理法規	7 (4)上下水道、給排水給湯、消火設備及びガス設備、浄化槽について学習し理解させる。	
	後 期		8 (5)図面、仕様書、現場説明書及び請負契約等について学習し理解させる。	
		⑥ 設問別傾向と対策	10 (6)上下水道法について学習し理解させる。	⑥～⑨ 試験
		⑦ 過去問題徹底演習	(7)問題の種類別に、その出題傾向と対策を行う。	
		⑧ 試験自己採点	11 (8)過去問題を数年前にさかのぼり徹底演習する。 【11月中旬に資格試験開催予定】	
		⑨ 消防設備士資格対策	12	
			1 問題の種類別に、その出題傾向と対策を行う。	
			2	
			3	

6 特記事項

【関連教科】 ①冷凍機Ⅱ ②原動機

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
原動機Ⅱ	講義		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	大城 勝
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①ボイラーの構造・取扱い・燃料及び燃焼に対する知識を学ぶ。 目標:「2級ボイラー技士(学科)」の取得。
使用教科書・副教材等	2級ボイラー技士過去6回問題集'26年度版詳解 二級ボイラー技士教本
教員実務経験	ビル管理会社にてホテルのボイラ運転業務に従事した。

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	40 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① ボイラーの構造 ② ボイラーの取扱い ③ 燃料及び燃焼 ④ 資格試験対策(一回目試験)	4	(1)熱及び蒸気、(2)ボイラーの概要、(3)丸ボイラー、水管ボイラー、(4)鋳鉄製ボイラー、特殊ボイラーについて理解させる。	①～③
			5	(7)ボイラー各部の構造と強さ、(8)付属品及び付属装置、(9)ボイラーの自動制御、(10)ボイラー用材料について理解させ	
			6	(1)ボイラーの運転操作、(2)付属品及び付属装置の取扱い、(3)ボイラーの保全、(4)ボイラーの水管理について理解させる。	①～③ 試験
			7	(1)燃料、(2)燃焼方式と燃焼装置、(3)燃焼室及び通風について理解させる。	
			8	(1)〔構造・取扱い・燃料及び燃焼〕の復習を行う。 (2)前期末試験にて個々の理解度をチェックする。	
	後 期	⑤ 資格試験対策(二回目試験) ⑥ 燃料及び燃焼(復習) ⑦ 関係法令(復習)	10	・個人別苦手分野を分析し、対策～実施し理解度を深める。 ・資格試験前対策。	①～⑦ 試験
			11	(1)過去問と模擬試験を繰り返し解き、理解度を深める。	
			12	(1)燃料及び燃焼を復習する。	
			1	(1)関係法令を復習する。	
			2	卒業試験	
	期		3		

6 特記事項

【関連教科】 ①消防設備士対策Ⅰ ②冷凍機Ⅰ
--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
電気工事施工管理Ⅱ	講義		3	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	糸数 亮太
			57	40	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	施工管理に必要な知識を深め、電気工事に対する理解度を向上させる。 2級電気工事施工管理技士(学科)合格を目標とする。
使用教科書・副教材等	2級電気工事施工管理技術検定試験問題(学校作成本) 2級電気工事施工 完全研究(学校作成本)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	25 %			%
	課題・宿題・その他	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	前 期 ①関連分野 電気設備 ②電気工学 ③資格試験対策(上期試験) ④施工管理法 ⑤施工計画	4	(1)機械設備関係～(4)設計・契約関係を理解する。 (1)発電設備～(6)電車線を理解する。	①～②
		5	(1)電気理論～(4)電気応用を理解する。	
		6	・個人別苦手分野を分析し、対策～実施し理解度を深める。 ・過去問題集を繰り返し解く。【6月14日試験】	①～⑤ 試験
		7	(1)発電所の建設工事、(2)架空電線路工事、(3)自家発電設備の施工、 (4)受変電設備機器の取扱い、(5)保護協調について理解させる。	
		8	(1)施工計画、工程管理、(2)品質管理、安全管理について理解させる。	
学 年	後 期 ⑥資格試験対策(下期試験) ⑦電気工学(復習) ⑧電気設備(復習) ⑨電気事業法関係(復習) ⑩卒業試験	10	・個人別苦手分野を分析し、対策～実施し理解度を深める。 ・資格試験前対策。	⑦～⑨ 試験
		11	(1)電気理論～(4)電気応用を復習する。	
		12	(1)発電設備～(6)電車線を復習する。	
		1	(1)電気事業法Ⅰ～(5)一般用電気工作物の保安体制を復習する。	
		2	卒業試験	
		3		

6 特記事項

【関連教科】
①電気工事士対策Ⅱ②管工事施工管理Ⅱ③消防設備士対策Ⅱ

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
消防設備士対策Ⅱ	講義		3	4	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	辻野 宙直/幸地 司
			57	80	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	基礎的知識・法規・鑑別試験の復習をし応用知識(製図)を学ぶ。 目標:消防設備士甲種第四類の資格取得を目標とする。
使用教科書・副教材等	やさしい第4類消防設備士試験 副教材:問題集(学校作成資料)
教員実務経験	企業技術部にて工場設備の改修～保守全般の業務に従事

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	25 %			%
	課題・宿題・その他	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	前	①製図(系統図) ②製図(平面図) ③消防関係法令Ⅰ(共通部分)	4 製図(系統図)①	①～②
			5 製図(系統図)②	
			6 製図(平面図)	
	期		7 消防関係法令Ⅰ(共通部分)①	①～③ 試験
			8 消防関係法令Ⅰ(共通部分)②	
学 年	後 期	④消防関係法令Ⅱ(第4類) ⑤鑑別等試験(写真鑑別) ⑥規格に関する部分(構造及び機能) ⑦電気に関する部分Ⅰ(設置基準) ⑧電気に関する部分Ⅱ(試験及び点検) ⑨ガス漏れ火災警報設備(構造及び機能、設置基準) ⑩電気理論	10 消防関係法令Ⅱ、鑑別等試験(写真鑑別)、模擬試験	④～⑩ 試験
			11 模擬試験	
			12 復習: 規格に関する部分(構造及び機能)、電気に関する部分Ⅰ(設置基準)	
			1 復習:ガス漏れ火災警報設備(構造及び機能、設置基準) 電気に関する部分Ⅱ(試験及び点検)、電気理論	
			2	
			3	

6 特記事項

【関連教科】

①電気工事士対策Ⅱ②実習Ⅱ(消防設備)

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
冷凍機Ⅱ	講義		2	4	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	糸数 亮太
			40	80	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	冷凍サイクル、冷凍機の原理 冷凍機の応用からなる冷凍工学と空気調和の基礎を学習する。 第三種冷凍機械責任者試験合格を目指す。
使用教科書・副教材等	イラストで学ぶ冷凍空調入門 冷凍機械責任者(1・2・3冷)試験問題と解答例
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	40 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲	
第 二 学 年	前 期	① 冷凍機法令	4	(1) 高圧ガス保安法をはじめとする、高圧ガスの取り扱いに関連する法規について学習して理解させる。	①～②	
			5	(2) 関連法規と摘要範囲、高圧ガスの製造、販売、貯蔵、消費等、保安、高圧ガス保安協会、その他の規定を学習して理解させる。		
		② 過去問題演習(法令)	6	・問題の種類別に、その出題傾向と対策を行う。	①～③ 試験	
			③ 保安管理技術(1)	7		(3) 冷凍の基礎、冷凍の原理と温度、温度と体積、圧力と体積、熱の移動について学習して理解させる。
				8		(4) 冷凍の理論、冷媒、P－h線図からの計算方法を学習して理解させる。
	後 期	④ 保安管理技術(2)	10	(5) 各種機器、圧縮機、凝縮器、蒸発器、補器、自動制御機器、配管から運転、保安まで、実務的な冷凍装置について学習して理解させる。	④～⑥ 試験	
		⑤ 過去問題徹底演習	11	・問題の種類別に、その出題傾向と対策を行う。		
			⑥ 学識	12		(6) 冷凍装置の強度と試験、設計圧力と許容圧力、強度と板厚、検査、試験、安全装置について学習して理解させる。
		1		(7) 運転と保安 運転管理、保安管理、異常現象の原因と対策について学習して理解させる。		
		2		(8) 冷凍装置の成績係数、冷凍能力、ピストン押しのけ量、体積効率、冷媒循環量、各公式について学習して理解させる。		
3						

6 特記事項

【関連教科】

①冷凍機Ⅱ ②原動機

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
電気工事士対策Ⅱ	講義		2	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	大城 勝
			38	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・一般用/自家用電気工作物の電気工事に必要な応用知識を身につける ・第一種電気工事士試験合格を目標とする
使用教科書・副教材等	第一種電気工事士筆記試験完全マスター 第一種電気工事士筆記試験模範解答集
教員実務経験	ビル管理会社にてホテルのボイラ運転業務に従事した。

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	25 %			%
	課題・資格取得・その他	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① 配線図問題 ② 鑑別・選別問題 ③ 保安に関する法令 ④ 発電・送電・変電設備 ⑤ 自家用電気工作物の検査 ⑥ 方法 ⑦ 電気工事の施工方法 ⑧ 電気機器・高圧受電設備等 ⑨ 電気応用 筆記試験直前対策	4	(1)高圧受電設備の単線～電動機の制御回路問題(3) (2)高圧受電設備の機器・材料～検査測定用計器	①～④
			5	(1)電気事業法①～電気用品安全法 (2)水力発電～送電・変電設備(2)	
			6	(1)電気計器の種類・接続～定期点検 (2)低圧屋内配線～高圧受電設備	
			7	(1)変圧器のタップ電圧等～工事用工具 (2)光源～電動力応用	
			8	(1)計算の基礎～スターデルタ等価交換 (2)過去問題集を中心に筆記試験対策	①～⑩ 試験
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

【関連教科】

①冷凍機Ⅱ ②原動機

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
危険物取扱者対策Ⅱ	講義		3	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	幸地 司
			57	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理学と化学の基礎及び危険物の性質ならび火災予防、消防法を学習する。乙種4類危険物取扱者試験合格を目指す。
使用教科書・副教材等	受験用マンガ乙種第4類危険物取扱者
教員実務経験	航空整備部門にて工場設備の改修～保守全般の業務に従事

2 追試験基準

前期	50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	25 %			%
	小テスト	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①物理学と化学の基礎知識 ②危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法 ③危険物に関する法令	4	(1) 基礎的物理学及び基礎的化学について学習し理解させる。 (2) 燃焼の基礎について学習して練習問題を活用して理解させる。	①
			5	(3) 消火に関する基礎について練習問題を活用して理解させる。 (4) 第四類危険物以外の危険物の概論について学習し理解させる。	
			6	(5) 第四類危険物の概論について練習問題を活用して理解させる。 (6) 消防法について学習して練習問題を活用して理解させる。	①～③ 試験
			7	(6) 消防法について学習して練習問題を活用して理解させる。 (7) 危険物の規制法に関する政令について学習し理解させる。	
			8	(8) 危険物の規制及び規則について練習問題を活用して理解させる。 (9) 模擬試験問題を活用して試験対策	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

①原動機Ⅱ②冷凍機Ⅱ③消防設備士対策Ⅱ④管工事施工管理Ⅱ

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
電気機械製図Ⅱ	演習		2		学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	内間 嘉春
			38		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	電気機械製図Ⅰの応用編として設計の一連の流れに沿ってCAD技術を習得する。
使用教科書・副教材等	プリント『実施図面』 全国建築CAD連盟 建築CAD検定試験問題集
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	提出課題の50%未満は追加課題
後期試験	

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期課題成績	60 %	仮評価		%
	提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 二 学 年	前 期	① CAD検定試験対策	4	建築CAD検定試験2・3級の過去参考図をもとに一定時間内に正確にトレースし完成させるスキルを習得させる。	① 課題
			5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	実施図面を基に、これまでの基本操作を用いて、図面の作図を習得させる。 ・平面詳細図 ・展開図 ・階段詳細図	② 課題
	後 期				

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
実習Ⅱ	実習		6	12	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	大城 勝
			120	240	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・第一種電気工事士【技能試験】合格を目指し、候補問題対策を行う。 ・実践的で現場作業に近い電気工事配線や工具の使用方法を学ぶ。 ・実習を通して消防設備機器の知識を深め、実践的な技術を学ぶ。 ・自動制御回路の仕組みを理解し実際に配線し、より実践的な技術を学ぶ。 ・旋盤を使った各加工方法を学び、実践的な技術を学ぶ。
使用教科書・副教材等	自作教材
教員実務経験	ビル管理会社にてホテルの電気設備保守管理に従事した。

2 追試験基準

前期	第一種電気工事士実技試験基準
後期	50点未満

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	40 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①第一種電気工事士 No1-No10 ②電気工事配線 演習 ③電気合成樹脂管工事实習	4	(1)合成樹脂管工事の基礎知識を習得する。 (2)電気工事配線 演習	②-③
			5	(1)合成樹脂管工事の基礎知識を習得する。 (2)電気工事配線 演習	
			6	(1)合成樹脂管工事の基礎知識を習得する。 (2)電気工事配線 演習	
			7	(1)複線図への書き直し作業《配線図》 (2)単位作業を習得させる。	① 試験
			8	(1)複線図への書き直し作業《配線図》 (2)単位作業を習得させる。(3)タイムトライアルを実施する。	
	後 期	④第一種電気工事士 No1-No10 ⑤クーラー設備実習 ⑥電子回路演習	10	(1)複線図への書き直し作業《配線図》 (2)単位作業を習得させる。(3)タイムトライアルを実施する。	⑤～⑥ 試験
			11	(1)試験形式での候補問題対策を実施する。	
			12	(1)クーラー設備の基礎知識及び取付 (2)原動機の基礎知識及び測定実習	
			1	(1)クーラー設備の基礎知識及び取付 (2)原動機の基礎知識及び測定実習	
			2	(1)クーラー設備の基礎知識及び取付 (2)電子回路	
			3		

6 特記事項

【関連教科】

①電気工事士対策Ⅱ ②消防設備士対策Ⅱ

科 目 名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	電気機械科
企業研修	演習			学 年	二年次
			18	教員	糸数 亮太

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	60 %
	研修活動への取り組み	40 %
		%
		%

3 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	①各専攻分野において学院及び企業との協議の上で決定する。	4	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	①
		5		
		6		
		7		
		8		
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

4 特記事項

詳細事項に関しては、学院及び企業とで「職業教育に係る事業連携協定書」を締結し決定する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	電気機械科
就職実務Ⅱ	講義		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	就職活動が始まるにあたり応募書類の作成や、企業説明会及び企業訪問や面接時の心得などビジネスマナーの基礎を学ぶ。
使用教科書・副教材等	ビジネス実務マナー検定 2級・3級 らくらく合格 テキスト&問題集(翔泳社)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	成績評価の50%未満
後期試験	成績評価の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	課題評価(前期) 試験評価(後期)	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 二 学 年	前 期	【就職活動・企業研究】 企業説明会 インターンシップ 採用試験受験 (採用試験対策)	4	企業説明会 ・授業枠を使用して企業を誘致、学内にて説明会を開催。 ・採用実績のある企業が主体となり応募対象を絞り込む。 ・業界関係職種なども含めた幅広い情報をレポートに納める。 インターンシップ ・実際の職場環境を体感し、企業研究を更に深める。 就職試験対策 ・応募企業の選定後、採用試験の受験を斡旋。 ・並行して採用試験に関する受験対策授業を実施。 (面接所作、一般常識などの筆記対策、履歴書作成など)	レポート 確認テスト
			5		
			6		
			7		
			8		
	後 期	【ビジネス実務マナー検定】 基本マナー 会話マナー 接客マナー ビジネス文書	10	1.基本マナー 身だしなや、ハウレンソウなどの働くうえでの基礎を学。 2.会話マナー 尊敬語、謙譲語、丁寧語のTPO、応用を学習。 3.接客マナー 挨拶、名刺交換、訪問の際のノーハウを学習。 4.ビジネス文書 ビジネス文書の基礎知識を学習。 5.冠婚葬祭/食事/病気見舞マナー 業界に付随したマナー実例などを学習。 6.社内文章 文書の種類と基礎知識を学習	後期試験
			11		
			12		
			1		
			2		
	期		3		

6 特記事項

成績前期評価は企業説明会レポート課題評価とする。